

雪の塔

夢野久作

玉雄と照子は兄妹きょうだいで毎日仲よく連れ立って、山を越えて向うの学校に通って、帰日も仲よく一所になって帰って来ました。

或る日、二人はいつもの通り学校から手を引き合って、唱歌をうたいながら帰りがけ山道にかかりますと、真暗な空から雪がチラチラ降り出して、見ている内に道が真白になりました。

二人は唱歌を止めて急ぎましたが、雪はだんだん激しくなるばかり。しまいにはあとも先も見えず、どこが道やらわからなくなり、だんだん山深く迷い入って行きました。